「日々の理科」（第 1796 号）　2019,-6,-9

「裏磐梯紀行（７）」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中　千尋　Chihiro Tanaka

桧原湖畔探勝路は、スタートからゴールまで約 6km、もともと湖に沿ってつけられた歩道なので、平坦なところが多い。子どもでも２時間あれば十分に歩けそうだ。楽な割には、景観は変化に富んでいる。

幅員（道幅）は 2m 程度で狭小だが、アスファルト舗装されているのが嬉しい。設置後に草刈りなどの管理を最小限にする為の措置かもしれない。写真のように、途中何か所かキャンプ場を通る。しかし、土曜日というのに、ついに利用者を一人も見かけなかった。管理人さんに尋ねたら、「原発事故以来、お客さんは激減し、それがまだ続いています」と聞いて愕然とした。まだ影響が続いていたとは・・・。

途中、見晴しの良いところで、大型遊覧船が見えた。これは桧原湖を周遊する定期船だ。しかし、観光船の受付で聞いた話も同じだった。原発事故前は、周遊船だけでなく、別の船着き場に行く、往復航路も運行していたという。しかし、事故後は乗船客が激減。今は、一日数便の周遊船のみだという。

そもそも「福島第一原子力発電所」という名称そのもの、が被害を大きくしたと思う。「東京電力第 34 発電所」とか「トーデン・ニコニコ発電所」だったら、福島県内---特に放射線とはほぼ無縁の会津地方の観光客減少は、最小限で済んだかもしれない。

桧原湖には島が多い。それも小さな島ばかりだ。これも 1888 年（明治 21 年）の磐梯山大噴火（山体崩壊）によって「飛んできた」磐梯山の一部である。当時は陸上の丘だったが、その後長瀬川（猪苗代湖に流れ込む）の上流がせき止められて桧原湖に水がたまり、島として残ったのである。こうした丘は、桧原湖畔にも多数存在する。

その当の磐梯山、朝は雲を冠っていたが、午前中に完全に姿を現した。猪苗代町側（南側）から見た磐梯山とちがって、裏磐梯側から見ると、二つのピークを持つ特異な「双耳峰」として見える。その鞍部が、山体崩壊で吹っ飛んだ跡なのだ。